

【学年】 3年	【教科・単元など】社会「見なおそうわたしたちの暮らし」(全 25 時間)
---------	--------------------------------------

○単元目標

- ・家庭の買い物の様子を調べて、その結果を表やグラフに表して傾向を読み取ることができるようにするとともに地域にはいろいろな店があり、それぞれに良いところがあることを理解することができるようにする。
- ・家庭の買い物調べやスーパーマーケットの学習をふまえて、上手な買い物の仕方について考え、消費者として意識を高めることができるようにする。

○実践概要

1 ～ 4	○お楽しみ会の料理の材料を、自分はどこで買いたいと考えよう。 それぞれの家ではどこでどんな買い物をしているのか、買い物調べをしよう。 ○グラフにしてわかること、疑問に思ったことを話し合おう。(課題設定)
5 ～ 20	スーパー調査隊になって、スーパーの人気のひみつを探ろう。 ○スーパーについて調べたいことを考えて、予想を立て、確かめる方法を考えよう。 ○スーパーの見学に行こう。 ○人気のひみつについてわかったことをまとめよう。 小さな専門店や、コンビニのよさはそれぞれ何か、そのひみつを探ろう。 ○専門店について調べよう。 ○コンビニについて調べよう。 ○(それぞれの)よさについてまとめよう。 ○それぞれのお店のよさについて、自分の一押しポイントを選んで、ポスターセッションしよう。
21 ～ 24	上手な買い物の仕方を考えよう。 ○お楽しみ会の料理の材料を買う際、自分はどこでどのように買い物がしたいと考えよう。(個人) ○どこで何を買うか、グループで話し合おう。《本時》 ○グループに分かれて、買い物に行こう。

○知的好奇心について

本単元を行うに当たって、子どもの生活の中で、身近でありながら意識されていなかった、消費・販売活動の世界を捉えやすくする必要があった。そこで、まず消費者としての自分を、単元を通して意識するために、導入で「3年生の最後にお楽しみ会で料理をしたい。」と言った子どもの思いを取り上げた。お楽しみ会での料理の材料を揃えるために、どのように買い物をするのがよいのだろうか、という問いをきっかけとすることで、自分が消費活動をする当事者であることを意識し、自分の問題として、知的好奇心を持って取り組めることを考えた。さらに、地域の店の方々の協力を得ながら、実際に見学に行って観察をしたり、インタビューをしたりして、人やものと直接触れ合う中で、地域の消費・販売活動を身近に感じることで、知的好奇心を喚起しながら学習に向かうことを期待した。

【子どもの様子・反省】

子どもは大変意欲的に取り組んでいた。きっかけを、「お楽しみ会で料理を作るための買い物。」としたことで、子どもが主体的に学びを深めていくことができた。たとえば、値段の調査を近隣のスーパー全てにおいて自主的に調べてきたり、第3次で、グループの買い物の仕方を、各商店のよさを比較しながら決めた際には、個々に自分の考えにこだわりを持って話し合いに向ったりする姿があった。実際に買い物へ出かけた際は、品物が売り切れるといった予期せぬトラブルにも見舞われたが、これまでの学習を生かして、子ども同士で話し合い、近くのスーパーを選んで予算や時間を気にしながら買いものに行くような実践力も見られた。

前述のようにしたことで、子どもは消費・販売活動を自分の問題として常に考え、追求していくことができた。ところが、これによって、授業の構造が社会科と総合を組み合わせた2重構造となることも教師側が改めて意識しておくが必要だったことを感じている。子どもの目的は、料理をすることにある一方で、教師のねらいとしては、社会科として買い物をすることという構造である。それを教師が意識をしながら、子どもの願いをかなえつつ、社会科としての目的も達成していくことが重要であったと感じている。